

『水野忠精幕末老中日記』における月番老中の記載について

—老中月番表の新たな作成にむけて—

白 峰 旬

緒 言

『水野忠精幕末老中日記』（原本は東京都立大学〔現・首都大学東京〕附属図書館所蔵）は、幕末の文久2年（1862）3月～慶応2年（1866）3月に老中を勤めた水野忠精（天保の改革をおこなった水野忠邦の子であり、老中在任中は出羽山形藩主）の日記である。『水野忠精幕末老中日記』という書名は、ゆまに書房からその影印本が全9巻⁽¹⁾として刊行された際に付けられたもので、本来この史料の原題は「日記」である。

この『水野忠精幕末老中日記』（以下、『水野忠精日記』と略称する）の内容については、幕末史が御専門で本学文学部史学科准教授の針谷武志先生が解説を御執筆されているので⁽²⁾、詳しい解説はそちらに譲りたいが、針谷先生の解説によれば、『水野忠精日記』には水野忠精の老中在任期間（文久2年～慶応2年）だけでなく、それ以前の雁間詰の江戸城勤番の期間（弘化2年〔1845〕～嘉永6年〔1853〕）や、寺社奉行を勤めた期間（安政5年〔1858〕～万延元年〔1860〕）の記載も含まれている。

本稿では、『水野忠精日記』における月番老中の記載に着目して検討するが⁽³⁾、『水野忠精日記』に各月の月番老中の記載があることは、針谷先生より筆者が直接御教示をいただいたものであり、その点で針谷先生の御教示に深く感謝する次第である。

『水野忠精日記』における月番老中の記載をまとめると、表1のようになる。表1を見るとわかるように、老中の月番だけでなく、勝手掛老中、外国掛老中の月番も記載されている。老中の月番の記載期間は安政5年11月から慶応2年2月までの足掛け9年であるが、その間、月番の記載がない月（安政6年〔1859〕9月、文久3年〔1863〕3月～同年5月、文久3年11月、元治元年〔1864〕5月）や、『水野忠精日記』が存在しない月（万延元年8月、文久元年〔1861〕1月～同年12月、文久2年1月～同年2月、慶応元年〔1865〕5月、慶応元年6月～同年7月）もあり、それらの月は老中の月番を知ることができない。

表1における勝手掛老中、外国掛老中の各月の月番をみると、①2人の老中が数ヶ月ほぼ交代で月番を勤めた時期がある（勝手掛老中…安政6年8月～万延元年閏3月、外国掛老中…万延元年4月～同年7月など）、②1人の老中が数ヶ月連続して月番を勤めた時期がある（勝手掛老中…安政5年11月～同6年4月、外国掛老中…万延元年9月～同年12月など）、というように2つのパター

ンが多く認められる。これは、針谷先生が指摘されるように⁽⁴⁾、勝手掛老中、外国掛老中はそれぞれ1～2名しかいなかったため、1人で続けて月番を勤めるか、或いは、2人で交代して月番を勤めて事務を処理したことを示すものと言えよう。また、月番老中が月番の勝手掛老中を兼任したケース(文久3年6月、同年12月など)、月番老中が月番の外国掛老中を兼任したケース(万延元年7月、同年11月など)、月番の勝手掛老中が月番の外国掛老中を兼任したケース(元治元年8月、同年9月など)もあったことがわかる。これも勝手掛老中、外国掛老中がそれぞれ1～2名しかいなかったことに起因するものであろう。

『水野忠精日記』における各月の月番老中の記載をもとに作表し、これまで知られていた老中月番表⁽⁵⁾に追加したものが表2である(勝手掛老中、外国掛老中は省略した)。今回の追加部分は、上述のように『水野忠精日記』に月番の記載がない月があったり、『水野忠精日記』が存在しない月があったりして、空欄になった月もあるが、従来の老中月番表が寛延元年(1748)1月～安政5年11月までの期間であったのに対して、その後の安政5年12月～慶応2年2月までの期間を追加できたことの意義は大きい。

老中月番制の運用を考えるうえで重要な点として、担当する月の月番老中が欠勤した場合に、その代行を勤める助月番、助々月番^{すけつきばん すけすけつきばん}の老中の存在が注目される。この点はすでに針谷先生が指摘される⁽⁶⁾、月番老中が欠勤した場合は、次順の老中(次の月の月番老中)が助月番を勤めるという点を指摘されている。『水野忠精日記』では、文久2年4月、元治2年(1865)3月(内容的には元治2年3月ではなく安政元年(1854)3月と考えられる⁽⁷⁾)に助月番、助々月番に関する記載がある。それによれば、助月番のことを「助」、助々月番のことを「又助」と記している(表1参照)。文久2年4月の場合、助月番、助々月番ともに老中は各1名であるが、元治2年3月(本当は安政元年3月)の場合、助月番は老中1名、助々月番は老中2名である(表1参照)。このように、助々月番は老中2名が予定されているケースもあったことがわかり注意される。

表1をもとに考えると、文久2年4月の助月番は久世広周、助々月番は松平信義であるが、表2を見ると、久世広周は翌月の月番老中ではない。松平信義は翌々月の月番老中ではなく3ヶ月後の月番老中である。また、表1をもとに考えると、安政元年3月の助月番は内藤信親、助々月番は松平乗全、松平忠優である。表2を見ると、内藤信親は翌月の月番老中であるが、松平乗全、松平忠優はともに翌々月の月番老中ではなく、松平乗全は3ヶ月後、松平忠優は4ヶ月後の月番老中である。

そのほか、表1における『水野忠精日記』の記載範囲では、万延元年9月、同年10月、文久2年11月の助月番はそれぞれ翌月の月番老中が勤め、慶応元年11月の助月番は翌々月の月番老中が勤め、文久2年8月、慶応元年10月の助月番は3ヶ月後の月番老中が勤めている。

こうした事例を考慮すると、助月番は翌月の月番老中が勤め、助々月番は翌々月の月番老中が勤めるという原則は必ずしも貫徹していなかったことがわかる。

上述のように、『水野忠精日記』における各月の月番老中の記載から、一部不明の月はあるものの、

安政5年11月～慶応2年2月の期間における月番老中が明確になったが、文久3年から慶応元年における14代将軍徳川家茂の3回の上洛期間中（京坂滞在期間中）の老中の構成について次に検討したい。

この点に関しては、すでに針谷先生が、文久3年から慶応元年の将軍家茂上洛期間中（京坂滞在期間中）の幕閣構成について、「それ以前とは異なり、江戸と上方に幕府機能が二分されていることを考慮せねばならない。老中らのいずれがどちらにいるのかを明確にする必要がある。」と指摘され、表3のようにまとめられている⁽⁸⁾。表3をみるとわかるように、将軍上洛時には将軍に供奉して江戸を離れた老中と、江戸留守として江戸に残った老中とに分かれたことがわかる。

将軍の上洛期間と各老中の月番の関係を見ると、酒井忠績（元治元年1月）、水野忠精（元治元年2月、同年4月）、有馬道純（元治元年3月）、板倉勝勝（慶応元年12月、同2年2月）はいずれも、在京中（在坂中も含む）に月番老中を勤めている点が注目される。その一方、松平宗秀は慶応元年8月に月番を勤めているが、この月は、上方から一時的に江戸に戻っていた時期にあたる⁽⁹⁾。

また、将軍上洛期間中（1回目の上洛…文久3年2月13日江戸発～同年6月16日江戸着、2回目の上洛…文久3年12月28日江戸発～元治元年5月20日江戸着、3回目の上洛…慶応元年5月16日江戸発～同2年7月20日大坂城で死去）に老中奉書（城郭修補許可）に署名した老中を見ると、いずれも江戸にいた老中だけが署名していることがわかる。

例えば、文久3年2月付老中奉書（人吉城の土居新規取り建て許可）には江戸留守の井上正直・松平信義は署名しているが、1回目の上洛に供奉した水野忠精・板倉勝清は署名していない。元治元年3月付老中奉書（松前城修補許可）、元治元年4月付老中奉書（宇都宮城修補許可）には、江戸留守の板倉勝清・牧野忠恭・井上正直は署名しているが、2回目の上洛に供奉した水野忠精・有馬道純・酒井忠績は署名していない。

慶応元年7月19日付老中奉書（犬山城修補許可）には江戸留守の水野忠精・本多忠民は署名しているが、3回目の上洛に供奉した阿部正外・松前崇広・松平宗秀・松平康英は署名していない。

慶応元年8月付老中奉書（大和郡山城修補許可）には江戸留守の水野忠精と、将軍上洛に供奉していたが一時的に江戸に戻っていた松平宗秀⁽¹⁰⁾が署名している。

慶応元年12月付老中奉書（小田原城の櫓再建許可）、慶応2年2月付老中奉書（岡崎城修補許可）には江戸留守の水野忠精と、将軍上洛の供奉後江戸に戻っていた松平康直⁽¹¹⁾が署名している。

このように、将軍上洛期間中に老中奉書（城郭修補許可）に署名した老中の数は2～3人であり⁽¹²⁾、将軍在府中に老中奉書（城郭修補許可）に署名した老中の数が5～6人のケースがあったことを考慮すると（後掲の表4参照）、人数として少なかったことがわかる。

上記のような将軍上洛期間、及びその前後の時期における老中奉書（城郭修補許可）の署名体制（老中のメンバー構成）をまとめたものが表4である。

以上の諸点を小括すると、『水野忠精日記』が幕末政治研究の第一級史料であることは論を俟たないが、本稿で検討したように、『水野忠精日記』には幕末の老中月番制を検討するうえで有効な

情報が多く含まれており、その点についても史料の意義を見いだすことができる。今後は、同様の視点から『水野忠邦天保改革老中日記』⁽¹³⁾についても考察をおこないたい、その点については他日を期したい。

[註]

- (1) 大口勇次郎監修、針谷武志解説『水野忠精幕末老中日記』1～9巻(ゆまに書房、1999年)。
- (2) 針谷武志著『水野忠精幕末老中日記 解説』(ゆまに書房、1999年)。
- (3) 前掲・針谷武志著『水野忠精幕末老中日記 解説』によれば、『水野忠精日記』の月番一覧には、老中以外に、若年寄・寺社奉行・留守居・町奉行・勘定奉行・外国奉行・目付の各月の月番も記載されている。なお、大目付は月番制を採っていないので記載されていない、という点も前掲・針谷武志著『水野忠精幕末老中日記 解説』では指摘されている。
- (4) 針谷先生の筆者への直接の御教示による。
- (5) 荒川秀俊「老中月番表」(『日本歴史』267号、吉川弘文館、1970年)。
- (6) 前掲・針谷武志著『水野忠精幕末老中日記 解説』。
- (7) 『水野忠精幕末老中日記』8巻(ゆまに書房、1999年)において、元治2年3月の月番一覧は2ヶ所(221、712頁)ある。そのうち、221頁の元治2年3月の月番一覧は、元治2年3月として間違いないと考えられるが、712頁の元治2年3月の月番一覧は、その内容を検討すると、元治2年3月ではなく、安政元年3月の月番一覧であると考えられる。
- (8) 針谷武志「幕末阿部正外履歴についての基礎的検討」(『学習院大学史料館紀要』11号、学習院大学史料館、2001年)。
- (9) 老中松平宗秀は慶応元年7月3日に帰府を命じられ、同年9月8日に上坂を命じられている(『維新史料綱要』巻6、東京大学出版会、1966年復刻、169、198頁)。
- (10) 前掲註(9)に同じ。
- (11) 老中松平康直は慶応元年の将軍上洛に供奉していた。慶応元年8月27日の時点では大坂にいたことが確認できる(前掲『維新史料綱要』巻6、193頁)。その後、いつ江戸に帰ったのか月日は不明であるが、同年10月16日に老中を辞職している、それを契機に江戸へ帰った可能性も考えられる。松平康直は同年11月20日に再び老中になるが、①同月24日、江戸で老中水野忠精とともに、ベルギーの使節と会見した(前掲『維新史料綱要』巻6、256頁)、②同年12月18日、老中水野忠精とともに、ロシア領事と会見した(前掲『維新史料綱要』巻6、274頁)、③同2年正月10日、老中水野忠精とともに、松平康直邸でイギリス公使と会見した(前掲『維新史料綱要』巻6、298頁)、④同2年2月11日、老中水野忠精とともに、松平康直邸でイギリス公使と会見した(前掲『維新史料綱要』巻6、336頁)、などの事実から、松平康直は老中再任後、慶応元年11月～同2年2月には上洛はせず江戸

にいたことがわかる。

- (12) そのほか、後掲の表 4 を見るとわかるように、將軍上洛期間中の老中奉書（城郭修補許可）に署名した老中が 1 人だったケース（慶応元年 11 月付老中奉書〔下館城修補許可〕）もある。これは、本来、江戸留守の老中である水野忠精と本多忠民の 2 人が連署するはずのところ本多忠民が病気のため署名しなかったことによるものである。
- (13) 大口勇次郎監修、針谷武志解説『水野忠邦天保改革老中日記』 1～10 巻（ゆまに書房、1999 年）。大口勇次郎監修、針谷武志解説『水野忠邦天保改革老中日記』 11～18 巻（ゆまに書房、2001 年）。

表1 『水野忠精幕末老中日記』における月番老中一覧

年 月	『水野忠精幕末老中日記』における記載		各月番老中の具体的氏名を比定したもの	
安政5年11月	御勝手	松平和泉守 太田備後守	松平乗全 太田資始	
安政5年12月		紀伊	内藤信親	
安政6年正月	御勝手	中務 備後	脇坂中務大輔 太田備後守	脇坂安宅 太田資始
安政6年2月	御勝手	中務 備後	脇坂安宅 太田資始	
安政6年3月	御勝手	和泉 備後	松平乗全 太田資始	
安政6年4月	御勝手	下総 備後	間部詮勝 太田資始	
安政6年5月	御勝手方	紀伊 下総	内藤信親 間部詮勝	
安政6年6月	御勝手方	備後 下総	太田資始 間部詮勝	
安政6年7月	御勝手方	中務 備後	脇坂安宅 太田資始	
安政6年8月	御勝手方	和泉 紀伊	出勤迄和泉	松平乗全 内藤信親 出勤までは松平乗全
安政6年9月	※月番一覧の記載なし			
安政6年10月	御勝手	紀伊 和泉	内藤信親 松平乗全	
安政6年11月	御勝手方	中務 紀伊	脇坂安宅 内藤信親	
安政6年12月	御勝手方	紀伊 和泉	内藤信親 松平乗全	
安政7年正月	御勝手方	和泉 紀伊	松平乗全 内藤信親	
安政7年2月	御勝手方	対馬 和泉	安藤信正 松平乗全	
安政7年3月	御勝手方	紀伊 和泉	内藤信親 松平乗全	
万延元年閏3月	御勝手	中務 紀伊	脇坂安宅 内藤信親	
万延元年4月	御勝手方 外国方	対馬 大和 中務	安藤信正 久世広周 脇坂安宅	
万延元年5月	御勝手方 外国方	大和 紀伊 対馬	久世広周 内藤信親 安藤信正	
万延元年6月	御勝手方 外国方	紀伊 大和 中務	出勤迄対馬	内藤信親 久世広周 脇坂安宅 出勤までは安藤信正
万延元年7月	御勝手方 外国方	対馬 紀伊 対馬	安藤信正 内藤信親 安藤信正	

万延元年9月	御勝手方 外国方	美濃 大和 対馬	出勤迄紀伊	本多忠民 久世広周 安藤信正	出勤までは内藤信親
万延元年10月	御勝手方 外国方	紀伊 大和 対馬	出勤迄対馬	内藤信親 久世広周 安藤信正	出勤までは安藤信正
万延元年11月	御勝手方 外国方	対馬 紀伊 対馬		安藤信正 内藤信親 安藤信正	
万延元年12月	御勝手 外国方	大和 紀伊 対馬		久世広周 内藤信親 安藤信正	
文久2年3月	御勝手 外国	豊前守 紀伊守 大和守		松平信義 内藤信親 久世広周	
文久2年4月	御勝手 外国	紀伊守 大和守 自分		内藤信親 久世広周 水野忠精	
	勤之割 月番 火事番 助(番) 又助(番)	紀伊守 自分 大和守 豊前守		内藤信親 水野忠精 久世広周 松平信義	
文久2年5月	御勝手 外国	自分 大和守 周防守		水野忠精 久世広周 板倉勝静	
文久2年6月	御勝手 外国	周防守 自分 自分		板倉勝静 水野忠精 水野忠精	
文久2年7月	御勝手 外国	豊前守 中務大輔 周防守		松平信義 脇坂安宅 板倉勝静	
文久2年8月	御勝手 外国	中務大輔 周防守 自分		脇坂安宅 板倉勝静 水野忠精	
			※目次によれば、七日より晦日まで（水野忠精が）助月番を勤めた		
文久2年閏8月	御勝手 外国	周防守 自分 自分		板倉勝静 水野忠精 水野忠精	
文久2年9月	御勝手 外国	豊前守 和泉守 周防守		松平信義 水野忠精 板倉勝静	
文久2年10月	御勝手 外国	自分 豊前殿 周防殿		水野忠精 松平信義 板倉勝静	
文久2年11月	御勝手 外国	河内守 和泉守 図書頭	出勤迄周防守	井上正直 水野忠精 小笠原長行（注1）	出勤までは板倉勝静
文久2年12月	御勝手 外国	周防守 豊前守 自分		板倉勝静 松平信義 水野忠精	
文久3年正月		河内守		井上正直	

文久3年2月	御勝手方 外国方	豊前守 周防守 自分	松平信義 板倉勝静 水野忠精
文久3年3月	※月番一覧の記載なし		
文久3年4月	※月番一覧の記載なし		
文久3年5月	※月番一覧の記載なし		
文久3年6月	御勝手方 外国	豊前守 豊前守 河内守	松平信義 松平信義 井上正直
文久3年7月		自分	水野忠精
文久3年8月	御勝手 外国	周防守 自分 河内守	板倉勝静 水野忠精 井上正直
文久3年9月	御勝手方 外国	遠江守 周防守 河内守	有馬道純 板倉勝静 井上正直
文久3年10月	御勝手 外国	自分 周防守 遠江守	水野忠精 板倉勝静 有馬道純
文久3年11月	※月番一覧の記載なし		
文久3年12月	御勝手 外国	周防守 周防守 遠江守	板倉勝静 板倉勝静 有馬道純
文久4年正月		雅楽頭	酒井忠績
文久4年2月		自分	水野忠精
元治元年3月		遠江守	有馬道純
元治元年4月		自分	水野忠精
元治元年5月	※月番一覧の記載なし		
元治元年6月	御勝手 外国	備前守 周防守 河内守	牧野忠恭 板倉勝静 井上正直
元治元年7月	御勝手 外国	自分 自分 備前殿	水野忠精 水野忠精 牧野忠恭
元治元年8月	御勝手 外国	備前守 自分 自分	牧野忠恭 水野忠精 水野忠精
元治元年9月	御勝手 外国	備前守 自分 自分	牧野忠恭 水野忠精 水野忠精
元治元年10月	御勝手 外国	伯耆殿 伯耆殿 自分	松平宗秀 松平宗秀 水野忠精
元治元年11月	御勝手 外国	豊後守 自分 諏訪因幡守	阿部正外 水野忠精 諏訪忠誠
元治元年12月	御勝手 外国	美濃守 備前守 豊後守	本多忠民 牧野忠恭 阿部正外

元治2年正月	御勝手 外国	自分 備前守 因幡守		水野忠精 牧野忠恭 諏訪忠誠	
元治2年2月	御勝手 外国方	備前守 自分 因幡守		牧野忠恭 水野忠精 諏訪忠誠	
元治2年3月	御勝手 外国	美濃守 備前守 自分		本多忠民 牧野忠恭 水野忠精	
元治2年4月	御勝手 外国	伊豆守 備前守 因幡守		松前崇広 牧野忠恭 諏訪忠誠	
慶応元年閏5月	御勝手 外国	美濃殿 自分 自分		本多忠民 水野忠精 水野忠精	
慶応元年8月	御勝手 外国	伯耆守 自分 自分		松平宗秀 水野忠精 水野忠精	
慶応元年9月	御勝手 外国	美濃殿 伯耆殿 自分		本多忠民 松平宗秀 水野忠精	
慶応元年10月	御勝手 外国	美濃殿 自分 自分	出勤迄自分	本多忠民 水野忠精 水野忠精	出勤までは水野忠精
慶応元年11月	御勝手 外国	美濃殿 自分 自分	出勤迄自分	本多忠民 水野忠精 水野忠精	出勤までは水野忠精
慶応元年12月	御勝手 外国	周防殿 自分 周防殿		板倉勝静 水野忠精 板倉勝静	
(元治2年3月) ※元治2年3月ではなく 安政元年3月と考えられる(注2)		備前守			
	勤之割 火事方 代 又助(番) 助(番) 又助(番)	備前守 大和守 伊勢守 伊賀守 紀伊守 和泉守		牧野忠雅 久世広周 阿部正弘 松平忠優(忠固) 内藤信親 松平乗全	
慶応2年正月	御勝手 外国	自分 自分 周防守		水野忠精 水野忠精 板倉勝静	
慶応2年2月	御勝手 外国	周防守 自分 自分		板倉勝静 水野忠精 水野忠精	

※上表において、年月の記載がない部分は、史料(『水野忠精幕末老中日記』)が存在しないことを示す。

(注1) 小笠原長行は、文久2年11月の時点では老中ではなく老中格であった。上表において、小笠原長行が出てくるのはこの1箇所だけなので、この月に臨時に外国掛老中の役割を果たしたのであろうか？

(注2) この部分の日記は、久世広周(大和守)の老中日記の写しと考えられる。この点については、針谷武志著『水野忠精幕末老中日記 解説』(ゆまに書房、1999年、6頁)を参照されたい。

表2 老中月番表(寛延元年〔1748〕～慶応2年〔1866〕)

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
寛延元年 (1748)	酒井忠知 (雅楽頭)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠知 (雅楽頭)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	
													閏10月
													酒井忠知 (雅楽頭)
寛延2年 (1749)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	
寛延3年 (1750)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	
宝暦元年 (1751)	堀田正亮 (相模守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	
													閏6月 堀田正亮 (相模守)
宝暦2年 (1752)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	松平武元 (右近将監)	堀田正亮 (相模守)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	
宝暦3年 (1753)	松平武元 (右近将監)	堀田正亮 (相模守)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (右近将監)	堀田正亮 (相模守)	西尾忠尚 (隠岐守)	本多正珍 (伯耆守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	西尾忠尚 (隠岐守)	
宝暦4年 (1754)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	西尾忠尚 (隠岐守)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	西尾忠尚 (隠岐守)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	
													閏2月 酒井忠奇 (左衛門尉)
宝暦5年 (1755)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	堀田正亮 (相模守)	本多正珍 (伯耆守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	
宝暦6年 (1756)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	西尾忠尚 (隠岐守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	本多正珍 (伯耆守)	松平武元 (右近将監)	
													閏11月 酒井忠奇 (左衛門尉)
宝暦7年 (1757)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	松平武元 (右近将監)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	
宝暦8年 (1758)	本多正珍 (伯耆守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	
宝暦9年 (1759)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	松平武元 (右近将監)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	西尾忠尚 (隠岐守)	松平武元 (右近将監)	
													閏7月 不明
宝暦10年 (1760)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	松平武元 (右近将監)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	秋元凉朝 (但馬守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	堀田正亮 (相模守)	秋元凉朝 (但馬守)	
宝暦11年 (1761)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	秋元凉朝 (但馬守)	井上利容 (河内守)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	井上利容 (河内守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	秋元凉朝 (但馬守)	井上利容 (河内守)	松平武元 (右近将監)	
宝暦12年 (1762)	松平輝高 (右京大夫)	秋元凉朝 (但馬守)	井上利容 (河内守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平輝高 (右京大夫)	秋元凉朝 (但馬守)	井上利容 (河内守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	井上利容 (河内守)	秋元凉朝 (但馬守)	松平輝高 (右京大夫)	
													閏4月 松平武元 (右近将監)
宝暦13年 (1763)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	酒井忠奇 (左衛門尉)	秋元凉朝 (但馬守)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	酒井忠奇 (左衛門尉)	秋元凉朝 (但馬守)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	
明和元年 (1764)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平康福 (周防守)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平武元 (右近将監)	酒井忠奇 (左衛門尉)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	
													閏12月 松平康福 (周防守)
明和2年 (1765)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	
明和3年 (1766)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	

『水野忠精幕末老中日記』における月番老中の記載について（白峰）

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
明和4年 (1767)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)
									閏9月 阿部正右 (伊予守)			
明和5年 (1768)	松平武元 (右近将監)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	松平武元 (右近将監)	阿部正右 (伊予守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)
明和6年 (1769)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	阿部正右 (伊予守)	松平康福 (周防守)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)
明和7年 (1770)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平輝高 (右近将監)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)
						閏6月 板倉勝清 (佐渡守)						
明和8年 (1771)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)
安永元年 (1772)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	田沼意次 (主殿頭)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	田沼意次 (主殿頭)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)
安永2年 (1773)	松平輝高 (右京大夫)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	田沼意次 (主殿頭)
		閏3月 板倉勝清 (佐渡守)										
安永3年 (1774)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平武元 (右近将監)
安永4年 (1775)	松平輝高 (右京大夫)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	板倉勝清 (佐渡守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)
												閏12月 田沼意次 (主殿頭)
安永5年 (1776)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	田沼意次 (主殿頭)	板倉勝清 (佐渡守)	松平武元 (右近将監)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)
安永6年 (1777)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	板倉勝清 (佐渡守)	松平武元 (右近将監)
安永7年 (1778)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	板倉勝清 (佐渡守)	松平武元 (右近将監)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	板倉勝清 (佐渡守)	松平武元 (右近将監)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)
							閏7月 田沼意次 (主殿頭)					
安永8年 (1779)	松平武元 (右近将監)	板倉勝清 (佐渡守)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	板倉勝清 (佐渡守)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	板倉勝清 (佐渡守)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)
安永9年 (1780)	松平輝高 (右京大夫)	板倉勝清 (佐渡守)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	板倉勝清 (佐渡守)	田沼意次 (主殿頭)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	阿部正允 (豊後守)	田沼意次 (主殿頭)	松平輝高 (右京大夫)
天明元年 (1781)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	松平輝高 (右京大夫)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	松平輝高 (右京大夫)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	久世広明 (大和守)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)
					閏5月 松平輝高 (右京大夫)							
天明2年 (1782)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)
天明3年 (1783)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)
天明4年 (1784)	田沼意次 (主殿頭)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	田沼意次 (主殿頭)	久世広明 (大和守)	田沼意次 (主殿頭)
	閏正月 久世広明 (大和守)											
天明5年 (1785)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	田沼意次 (主殿頭)	水野忠友 (出羽守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	田沼意次 (主殿頭)	水野忠友 (出羽守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	田沼意次 (主殿頭)	水野忠友 (出羽守)

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
天明6年 (1786)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	田沼意次 (主殿頭)	水野忠友 (出羽守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	田沼意次 (主殿頭)	水野忠友 (出羽守)	松平康福 (周防守)	水野忠友 (出羽守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康福 (周防守)
										閏10月 牧野貞長 (越中守)		
天明7年 (1787)	牧野貞長 (越中守)	水野忠友 (出羽守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (越中守)	水野忠友 (出羽守)	阿部正倫 (伊勢守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (備後守)	松平定信 (越中守)	阿部正倫 (伊勢守)
天明8年 (1788)	水野忠友 (出羽守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康福 (周防守)	牧野貞長 (備後守)	鳥居忠意 (丹波守)	牧野貞長 (備後守)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	牧野貞長 (備後守)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平信明 (伊豆守)
寛政元年 (1789)	牧野貞長 (備後守)	鳥居忠意 (丹波守)	牧野貞長 (備後守)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	牧野貞長 (備後守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	牧野貞長 (備後守)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)
寛政2年 (1790)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	松平信明 (伊豆守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	鳥居忠意 (丹波守)	松平信明 (伊豆守)	松平康完 (和泉守)
寛政3年 (1791)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	松平康完 (和泉守)	戸田氏教 (采女正)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	鳥居忠意 (丹波守)	松平信明 (伊豆守)
寛政4年 (1792)	松平康完 (和泉守)	戸田氏教 (采女正)	松平康完 (和泉守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	鳥居忠意 (丹波守)	松平康完 (和泉守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	松平康完 (和泉守)	鳥居忠意 (丹波守)	戸田氏教 (采女正)
寛政5年 (1793)	松平信明 (伊豆守)	松平康完 (和泉守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	松平康完 (和泉守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)
寛政6年 (1794)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	戸田氏教 (采女正)	安藤信成 (対馬守)	太田資愛 (備中守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	安藤信成 (対馬守)	太田資愛 (備中守)
												閏11月 松平信明 (伊豆守)
寛政7年 (1795)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	戸田氏教 (采女正)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	戸田氏教 (采女正)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)
寛政8年 (1796)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)
寛政9年 (1797)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)
寛政10年 (1798)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	太田資愛 (備中守)
寛政11年 (1799)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)	太田資愛 (備中守)
寛政12年 (1800)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	太田資愛 (備中守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)
享和元年 (1801)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)
享和2年 (1802)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	松平信明 (伊豆守)	安藤信成 (対馬守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	松平信明 (伊豆守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	松平信明 (伊豆守)
享和3年 (1803)	戸田氏教 (采女正)	松平信明 (伊豆守)	土井利厚 (大炊頭)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	松平信明 (伊豆守)	土井利厚 (大炊頭)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	松平信明 (伊豆守)	土井利厚 (大炊頭)	戸田氏教 (采女正)
文化元年 (1804)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)

『水野忠精幕末老中日記』における月番老中の記載について（白峰）

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
文化2年 (1805)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	戸田氏教 (采女正)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	戸田氏教 (采女正)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	戸田氏教 (采女正)	土井利厚 (大炊頭)
								閏8月 土井利厚 (大炊頭)				
文化3年 (1806)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	戸田氏教 (采女正)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)
文化4年 (1807)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)
文化5年 (1808)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)
						閏6月 牧野忠精 (備前守)						
文化6年 (1809)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)
文化7年 (1810)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)
文化8年 (1811)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)
		閏2月 牧野忠精 (備前守)										
文化9年 (1812)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)
文化10年 (1813)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	土井利厚 (大炊頭)
											閏11月 牧野忠精 (備前守)	
文化11年 (1814)	青山忠裕 (下野守)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)
文化12年 (1815)	松平信明 (伊豆守)	牧野忠精 (備前守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	酒井忠進 (若狭守)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)
文化13年 (1816)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	酒井忠進 (若狭守)	青山忠裕 (下野守)	牧野忠精 (備前守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	酒井忠進 (若狭守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)
文化14年 (1817)	酒井忠進 (若狭守)	土井利厚 (大炊頭)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	酒井忠進 (若狭守)	松平信明 (伊豆守)	青山忠裕 (下野守)	酒井忠進 (若狭守)	青山忠裕 (下野守)	酒井忠進 (若狭守)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)
文政元年 (1818)	酒井忠進 (若狭守)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	酒井忠進 (若狭守)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	酒井忠進 (若狭守)	阿部正精 (備中守)	土井利厚 (大炊頭)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)
文政2年 (1819)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	土井利厚 (大炊頭)	水野忠成 (出羽守)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	土井利厚 (大炊頭)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	大久保忠真 (加賀守)
				閏4月 大久保忠真 (加賀守)								
文政3年 (1820)	水野忠成 (出羽守)	土井利厚 (大炊頭)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	土井利厚 (大炊頭)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	土井利厚 (大炊頭)
文政4年 (1821)	大久保忠真 (加賀守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	阿部正精 (備中守)	土井利厚 (大炊頭)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	阿部正精 (備中守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)
文政5年 (1822)	大久保忠真 (加賀守)	阿部正精 (備中守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	土井利厚 (大炊頭)	水野忠成 (出羽守)	阿部正精 (備中守)	大久保忠真 (加賀守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	阿部正精 (備中守)

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
文政6年 (1823)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)
年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
文政7年 (1824)	松平乗寛 (和泉守)	大久保忠真 (加賀守)	松平輝延 (右京大夫)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	松平輝延 (右京大夫)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)
								閏8月 青山忠裕 (下野守)				
文政8年 (1825)	松平輝延 (右京大夫)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)
文政9年 (1826)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)
文政10年 (1827)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)	青山忠裕 (下野守)	青山忠裕 (下野守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)
					閏6月 水野忠成 (出羽守)		(注1)					
文政11年 (1828)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	松平康任 (周防守)	松平康任 (周防守)
文政12年 (1829)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	青山忠裕 (下野守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	大久保忠真 (加賀守)	水野忠成 (出羽守)
										(注2)		
天保元年 (1830)	青山忠裕 (下野守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	松平康任 (周防守)	青山忠裕 (下野守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	松平康任 (周防守)
			閏3月 水野忠成 (出羽守)									
天保2年 (1831)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)
天保3年 (1832)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)
											閏11月 松平乗寛 (和泉守)	
天保4年 (1833)	松平乗寛 (和泉守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	松平康任 (周防守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)
						(注3)						
天保5年 (1834)	水野忠成 (出羽守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	水野忠邦 (越前守)	大久保忠真 (加賀守)	松平康任 (周防守)	水野忠邦 (越前守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	松平康任 (周防守)	水野忠邦 (越前守)	大久保忠真 (加賀守)
		(注4)										
天保6年 (1835)	水野忠邦 (越前守)	松平康任 (周防守)	松平乗寛 (和泉守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	松平康任 (周防守)	水野忠邦 (越前守)	松平乗寛 (和泉守)	松平康任 (周防守)	水野忠邦 (越前守)	大久保忠真 (加賀守)	松平宗亮 (伯耆守)
							閏7月 大久保忠真 (加賀守)					
天保7年 (1836)	松平乗寛 (和泉守)	大久保忠真 (加賀守)	水野忠邦 (越前守)	松平宗亮 (伯耆守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠邦 (越前守)	松平宗亮 (伯耆守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠邦 (越前守)	大久保忠真 (加賀守)	松平乗寛 (和泉守)
天保8年 (1837)	松平宗亮 (伯耆守)	水野忠邦 (越前守)	松平宗亮 (伯耆守)	松平乗寛 (和泉守)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	松平乗寛 (和泉守)	脇坂安直 (中務大輔)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	松平乗寛 (和泉守)	脇坂安直 (中務大輔)
天保9年 (1838)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	松平乗寛 (和泉守)	脇坂安直 (中務大輔)	水野忠邦 (越前守)	松平乗寛 (和泉守)	脇坂安直 (中務大輔)	水野忠邦 (越前守)	太田資始 (備後守)	松平乗寛 (和泉守)	脇坂安直 (中務大輔)	太田資始 (備後守)
				閏4月 太田資始 (備後守)				(注5)				
天保10年 (1839)	脇坂安直 (中務大輔)	松平乗寛 (和泉守)	水野忠邦 (越前守)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	松平乗寛 (和泉守)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	脇坂安直 (中務大輔)	松平乗寛 (和泉守)	太田資始 (備後守)	脇坂安直 (中務大輔)
						脇坂安直 (中務大輔)			(注7)			
						(注6)						

『水野忠精幕末老中日記』における月番老中の記載について（白峰）

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
天保11年 (1840)	水野忠邦 (越前守)	土井利位 (大炊頭)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守) (注8)	脇坂安重 (中務大輔) (注9)	土井利位 (大炊頭)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	脇坂安重 (中務大輔)	土井利位 (大炊頭)	水野忠邦 (越前守)	太田資始 (備後守)
天保12年 (1841)	土井利位 (大炊頭) (注10)	土井利位 (大炊頭)	太田資始 (備後守)	水野忠邦 (越前守)	堀田正篤 (備中守)	土井利位 (大炊頭)	水野忠邦 (越前守)	真田幸貞 (信濃守)	真田幸貞 (信濃守) (注11)	真田幸貞 (信濃守)	水野忠邦 (越前守)	真田幸貞 (信濃守)
	閏正月 脇坂安重 (中務大輔)											
天保13年 (1842)	堀田正篤 (備中守)	土井利位 (大炊頭)	水野忠邦 (越前守)	真田幸貞 (信濃守)	堀田正篤 (備中守)	水野忠邦 (越前守)	土井利位 (大炊頭)	真田幸貞 (信濃守)	堀田正篤 (備中守)	土井利位 (大炊頭)	水野忠邦 (越前守)	堀田正篤 (備中守)
天保14年 (1843)	真田幸貞 (信濃守)	土井利位 (大炊頭)	堀田正篤 (備中守)	真田幸貞 (信濃守)	水野忠邦 (越前守)	土井利位 (大炊頭)	堀田正篤 (備中守)	真田幸貞 (信濃守)	水野忠邦 (越前守)	真田幸貞 (信濃守)	阿部正弘 (伊勢守)	土井利位 (大炊頭) (注13)
弘化元年 (1844)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	土井利位 (大炊頭)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	水野忠邦 (越前守)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	水野忠邦 (越前守)	阿部正弘 (伊勢守)
弘化2年 (1845)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)	阿部正弘 (伊勢守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)	阿部正弘 (伊勢守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)
弘化3年 (1846)	青山忠良 (下野守)	阿部正弘 (伊勢守) (注14)	戸田忠温 (山城守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)	青山忠良 (下野守)	阿部正弘 (伊勢守)	戸田忠温 (山城守)	牧野忠雅 (備前守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)	青山忠良 (下野守)
弘化4年 (1847)	戸田忠温 (山城守)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)	阿部正弘 (伊勢守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)	戸田忠温 (山城守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)
嘉永元年 (1848)	阿部正弘 (伊勢守)	青山忠良 (下野守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)	戸田忠温 (山城守)	牧野忠雅 (備前守)	松平乗全 (和泉守)	松平忠優 (伊賀守)
嘉永2年 (1849)	阿部正弘 (伊勢守)	戸田忠温 (山城守)	牧野忠雅 (備前守)	松平乗全 (和泉守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平乗全 (和泉守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	戸田忠温 (山城守)	松平忠優 (伊賀守)
嘉永3年 (1850)	松平乗全 (和泉守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	戸田忠温 (山城守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	戸田忠温 (山城守)	松平忠優 (伊賀守)	牧野忠雅 (備前守)	戸田忠温 (山城守)
嘉永4年 (1851)	阿部正弘 (伊勢守)	松平乗全 (和泉守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	戸田忠温 (山城守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平乗全 (和泉守)
嘉永5年 (1852)	松平忠優 (伊賀守)	久世広周 (出雲守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平乗全 (和泉守)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)	松平乗全 (和泉守)
嘉永6年 (1853)	久世広周 (大和守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平忠優 (伊賀守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)	内藤信親 (紀伊守)	松平乗全 (和泉守)	松平忠優 (伊賀守)
安政元年 (1854)	阿部正弘 (伊勢守)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)	内藤信親 (紀伊守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平乗全 (和泉守)	松平忠優 (伊賀守)	牧野忠雅 (備前守)	内藤信親 (紀伊守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)
安政2年 (1855)	内藤信親 (紀伊守)	牧野忠雅 (備前守) (注16)	久世広周 (大和守)	阿部正弘 (伊勢守)	松平忠優 (伊賀守)	松平乗全 (和泉守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	牧野忠雅 (備前守)	阿部正弘 (伊勢守)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)
安政3年 (1856)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)	堀田正篤 (備中守)	阿部正弘 (伊勢守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	牧野忠雅 (備前守)	堀田正篤 (備中守) (注17)	阿部正弘 (伊勢守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	牧野忠雅 (備前守) (注18)

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
安政4年 (1857)	阿部正弘 (伊勢守)	久世広周 (大和守)	牧野忠雅 (備前守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	牧野忠雅 (備前守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	松平忠固 (伊賀守) (注19)	久世広周 (大和守)
					閏5月 牧野忠雅 (備前守)							
安政5年 (1858)	内藤信親 (紀伊守)	脇坂安宅 (中務大輔)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	脇坂安宅 (中務大輔)	松平忠固 (伊賀守)	久世広周 (大和守)	間部詮勝 (下総守)	松平乗全 (和泉守)	脇坂安宅 (中務大輔)	松平乗全 (和泉守)	内藤信親 (紀伊守)
安政6年 (1859)	脇坂安宅 (中務大輔)	脇坂安宅 (中務大輔)	松平乗全 (和泉守)	間部詮勝 (下総守)	内藤信親 (紀伊守)	太田資始 (備後守)	脇坂安宅 (中務大輔)	松平乗全 (和泉守)		内藤信親 (紀伊守)	脇坂安宅 (中務大輔)	内藤信親 (紀伊守)
万延元年 (1860)	松平乗全 (和泉守)	安藤信正 (対馬守)	内藤信親 (紀伊守)	安藤信正 (対馬守)	久世広周 (大和守)	内藤信親 (紀伊守)	安藤信正 (対馬守)		本多忠民 (美濃守) (注20)	内藤信親 (紀伊守) (注21)	安藤信正 (対馬守)	久世広周 (大和守)
		閏3月 脇坂安宅 (中務大輔)										
文久元年 (1861)												
文久2年 (1862)			松平信義 (豊前守)	内藤信親 (紀伊守)	水野忠精 (和泉守)	板倉勝静 (周防守)	松平信義 (豊前守)	脇坂安宅 (中務大輔) (注22)	松平信義 (豊前守)	水野忠精 (和泉守)	井上正直 (河内守) (注23)	板倉勝静 (周防守)
								閏8月 板倉勝静 (周防守)				
文久3年 (1863)	井上正直 (河内守)	松平信義 (豊前守)				松平信義 (豊前守)	水野忠精 (和泉守)	板倉勝静 (周防守)	有馬道純 (遠江守)	水野忠精 (和泉守)		板倉勝静 (周防守)
元治元年 (1864)	酒井忠頼 (雅楽頭)	水野忠精 (和泉守)	有馬道純 (遠江守)	水野忠精 (和泉守)		牧野忠恭 (備前守)	水野忠精 (和泉守)	牧野忠恭 (備前守)	牧野忠恭 (備前守)	松平宗秀 (伯耆守)	阿部正外 (豊後守)	本多忠民 (美濃守)
慶応元年 (1865)	水野忠精 (和泉守)	牧野忠恭 (備前守)	本多忠民 (美濃守)	松前崇広 (伊豆守)				松平宗秀 (伯耆守)	本多忠民 (美濃守)	本多忠民 (美濃守) (注24)	本多忠民 (美濃守) (注25)	板倉勝静 (周防守)
					閏5月 本多忠民 (美濃守)							
慶応2年 (1866)	水野忠精 (和泉守)	板倉勝静 (周防守)										

【参考文献】

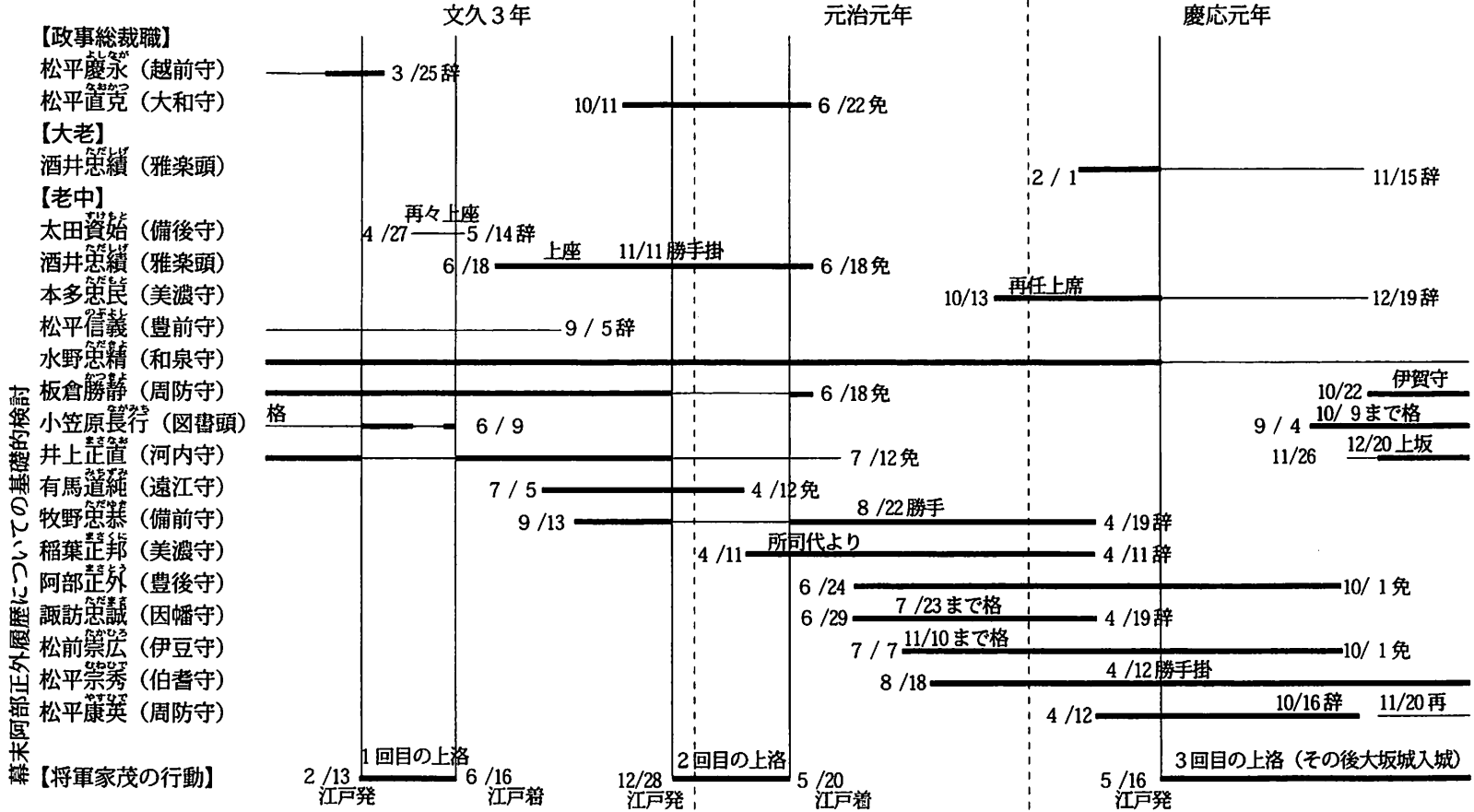
※寛延元年1月から安政5年11月までは、荒川秀俊「老中月番表」(『日本歴史』267号、吉川弘文館、1970年)を引用し、各老中の実名については加筆した。

※安政5年12月から慶応2年2月までは、『水野忠精幕末老中日記』(ゆまに書房、1999年)1～9巻における各年月の月番一覧の記載をもとに作成した。なお、『水野忠精幕末老中日記』における月番一覧の記載がない箇所や、『水野忠精幕末老中日記』が存在しない年月の箇所については、月番老中が不明であるため上表において空欄とした。

- (注1) 青山忠裕(下野守)の出勤までは松平康任(周防守)が月番老中を勤めた。
- (注2) 大久保忠真(加賀守)の出勤までは松平乗寛(和泉守)が月番老中を勤めた。
- (注3) 3日より松平康任(周防守)が月番老中を勤めた。
- (注4) 3日より松平康任(周防守)が月番老中を勤めた。
- (注5) 太田資始(備後守)が不快であるため(水野忠邦が月番老中を勤めた)。
- (注6) 上15日は松平乗寛(和泉守)、下15日は脇坂安董(中務大輔)が月番老中を勤めた。
- (注7) 3日から7日までは太田資始(備後守)が月番老中を勤めた。
- (注8) 16日は土井利位(大炊頭)、17日から20日までは脇坂安董(中務大輔)が月番老中を勤めた。
- (注9) 10日、12日の助(月番は)土井利位(大炊頭)が勤め、26日よりも同様(に土井利位(大炊頭)が助月番を勤めた)。
- (注10) 28日、29日の助(月番は)脇坂安董(中務大輔)が勤めた。
- (注11) 真田幸貫(信濃守)の出勤までは土井利位(大炊頭)が月番老中を勤めた。
- (注12) 土井利位(大炊頭)の出勤までは堀田正篤(備中守)が月番老中を勤めた。
- (注13) 土井利位(大炊頭)の出勤までは阿部正弘(伊勢守)が月番老中を勤めた。
- (注14) 阿部正弘(伊勢守)の出勤までは戸田忠温(山城守)が月番老中を勤めた。
- (注15) 松平忠優(伊賀守)の出勤までは久世広周(大和守)が月番老中を勤めた。
- (注16) 牧野忠雅(備前守)の出勤までは内藤信親(紀伊守)が月番老中を勤めた。
- (注17) 堀田正篤(備中守)の出勤までは阿部正弘(伊勢守)が月番老中を勤めた。
- (注18) 牧野忠雅(備前守)の出勤までは阿部正弘(伊勢守)が月番老中を勤めた。

- (注19) 前出の松平忠優と松平忠固は同一人物である。
(注20) (本多忠民 (美濃守) の) 出勤までは内藤信親 (紀伊守) (が月番老中を勤めた)。
(注21) (内藤信親 (紀伊守) の) 出勤までは安藤信正 (対馬守) (が月番老中を勤めた)。
(注22) 7日から晦日までは水野忠精が助月番を勤めた。
(注23) (井上正直 (河内守) の) 出勤までは板倉勝静 (周防守) (が月番老中を勤めた)。
(注24) (本多忠民 (美濃守) の) 出勤までは水野忠精 (和泉守) (が月番老中を勤めた)。
(注25) (本多忠民 (美濃守) の) 出勤までは水野忠精 (和泉守) (が月番老中を勤めた)。

表3 14代将軍徳川家茂の上洛期間、及び、その前後の時期における幕府の閣老(文久3年~慶応元年)



【出典】『柳宮補任』 表の太線は、將軍家茂の所在地にいることを示す。たとえば將軍上洛中の細線は江戸留守であることを示す。

京都大坂の違い、上洛使者・応接派遣などの不在の場合などは省略した。

※上表は、針谷武志「幕末阿部正外履歴についての基礎的検討」(『学習院大学史料館紀要』11号、学習院大学史料館、2001年)の中
の表1「文久3年-慶応元年 幕府閣老」表を引用した。ただし、本稿に収録するにあたり、筆者(白峰)が一部、加筆・修正した。

表4 幕末の14代将軍徳川家茂の上洛期間、及び、その前後の時期における老中奉書（城郭修補許可）の署名体制（老中のメンバー構成）の推移（文久3年～慶応2年）

No.	老中奉書（城郭修補許可）に署名した老中〔各覧の上段〕 老中奉書（許可対象の城郭）の年月日〔各覧の下段〕	合計人数
1	井上正直（河内守）・板倉勝静（周防守）・水野忠精（和泉守）・松平信義（豊前守） 文久3年1月26日（岡山城）	4人
2	▼井上正直（河内守）・松平信義（豊前守） 文久3年2月？日（岡山城） ※江戸留守の老中である井上正直（河内守）・松平信義（豊前守）のみが署名している。 ※将軍の上洛に供奉した水野忠精（和泉守）・板倉勝静（周防守）は署名していない。なお、将軍家茂が上洛のため江戸を発するのは文久3年2月13日である。	2人
3	板倉勝静（周防守）・有馬道純（遠江守）・酒井忠績（雅楽頭） 文久3年8月？日（岡崎城） ※松平信義（豊前守）・水野忠精（和泉守）・井上正直（河内守）は病気のため署名していない。	3人
4	井上正直（河内守）・有馬道純（遠江守）・板倉勝静（周防守） 文久3年9月？日（米子城）、文久3年9月？日（宮津城） ※酒井忠績（雅楽頭）は上京のため署名していない（注1）。 ※水野忠精（和泉守）は病気のため署名していない。	3人
5	水野忠精（和泉守）・有馬道純（遠江守）・牧野忠恭（備前守）・井上正直（河内守）・板倉勝静（周防守）・酒井忠績（雅楽頭） 文久3年10月？日（小浜城）	6人
6	板倉勝静（周防守）・井上正直（河内守）・酒井忠績（雅楽頭） 文久3年12月20日（前橋城） ※水野忠精（和泉守）・牧野忠恭（備前守）・有馬道純（遠江守）は署名していないがその理由は不明である。 ※将軍家茂は文久3年12月28日に上洛のため江戸を発するので、その直前の時期にあたる。	3人
7	▼板倉勝静（周防守）・牧野忠恭（備前守）・井上正直（河内守） 元治元年3月？日（松前城）、元治元年4月？日（宇都宮城） ※将軍の上洛に供奉した水野忠精（和泉守）・酒井忠績（雅楽頭）・有馬道純（遠江守）は署名していない。	3人
8	牧野忠恭（備前守）・阿部正外（豊後守）・井上正直（河内守） 元治元年7月？日（出石城） ※水野忠精（和泉守）・諏訪忠誠（因幡守）・稲葉正邦（美濃守）は署名していないがその理由は不明である。 ※井上正直（河内守）は元治元年7月12日に老中を退任するので、この老中奉書はそれ以前のもの（元治元年7月1日～同月11日）であることがわかる。	3人

『水野忠精幕末老中日記』における月番老中の記載について（白峰）

9	<p>牧野忠恭（備前守）・阿部正外（豊後守）・水野忠精（和泉守） 元治元年7月？日（西尾城） ※諏訪忠誠（因幡守）・稲葉正邦（美濃守）は署名していないがその理由は不明である。 ※井上正直（河内守）は元治元年7月12日に老中を退任するので、この老中奉書はそれ以後のもの（元治元年7月13日～同月晦日）であることがわかる。</p>	3人
10	<p>水野忠精（和泉守）・牧野忠恭（備前守） 元治元年7月？日（松江城） ※諏訪忠誠（因幡守）・稲葉正邦（美濃守）・阿部正外（豊後守）は署名していないがその理由は不明である。</p>	2人
11	<p>阿部正外（豊後守）・諏訪忠誠（因幡守）・松平宗秀（伯耆守）・牧野忠恭（備前守）・本多忠民（美濃守） 元治元年12月？日（米沢城） ※水野忠精（和泉守）・松前崇広（伊豆守）・稲葉正邦（美濃守）は署名していないがその理由は不明である。</p>	5人
12	<p>▼本多忠民（美濃守）・水野忠精（和泉守） 慶応元年7月19日（犬山城） ※江戸留守の老中である本多忠民（美濃守）・水野忠精（和泉守）のみが署名している。 ※将軍の上洛に供奉した阿部正外（豊後守）・松前崇広（伊豆守）・松平宗秀（伯耆守）・松平康英（康直）（周防守）は署名していない。</p>	2人
13	<p>▼水野忠精（和泉守）・松平宗秀（伯耆守） 慶応元年8月？日（大和郡山城） ※江戸留守の老中である水野忠精（和泉守）が署名している。 ※松平宗秀（伯耆守）は将軍上洛に供奉していたが、8月は幕命により一時的に江戸に戻っていた（注2）。 ※江戸留守の老中である本多忠民（美濃守）は署名していないがその理由は不明である。 ※将軍の上洛に供奉した阿部正外（豊後守）・松前崇広（伊豆守）・松平康英（康直）（周防守）は署名していない。</p>	2人
14	<p>▼本多忠民（美濃守）・水野忠精（和泉守） 慶応元年10月？日（松本城） ※江戸留守の老中である水野忠精（和泉守）・本多忠民（美濃守）が署名している。 ※将軍の上洛に供奉した阿部正外（豊後守）・松前崇広（伊豆守）・松平康英（康直）（周防守）・松平宗秀（伯耆守）・小笠原長行（宍守）は署名していない。なお、阿部正外（豊後守）・松前崇広（伊豆守）は慶応元年10月1日に老中を退任し、松平康英（康直）（周防守）は慶応元年10月16日に老中を退任した。小笠原長行（宍守）は慶応元年10月9日に老中に就任した。 ※慶応元年10月22日に老中に就任（再任）した板倉勝静（周防守）は署名していない。</p>	2人

15	<p>▼水野忠精（和泉守） 慶応元年11月？日（下館城） ※江戸留守の老中である水野忠精（和泉守）が署名している。 ※江戸留守の老中である本多忠民（美濃守）は病気のため署名していない。 ※将軍の上洛に供奉した板倉勝静（周防守）・松平宗秀（伯耆守）・小笠原長行（老岐守）は署名していない。 ※慶応元年11月20日に老中に就任（再任）した松平康英（康直）（周防守）は署名していない。 ※慶応元年11月26日に老中に就任（再任）した井上正直（河内守）は署名していない。</p>	1人
16	<p>▼松平康英（康直）（周防守）・水野忠精（和泉守） 慶応元年12月？日（小田原城） ※江戸留守の老中である水野忠精（和泉守）が署名している。 ※江戸留守の老中である本多忠民（美濃守）は署名していない。なお、本多忠民（美濃守）は慶応元年12月19日に老中を退任した。 ※松平康英（康直）（周防守）は慶応元年11月26日に老中に就任（再任）したが、慶応元年12月は江戸にいたと考えられる。松平康英（康直）（周防守）は署名している。 ※将軍の上洛に供奉した板倉勝静（周防守）・松平宗秀（伯耆守）・小笠原長行（老岐守）は署名していない。 ※慶応元年12月20日に上坂のため江戸を発した井上正直（河内守）は署名していない。</p>	2人
17	<p>▼松平康英（康直）（周防守）・水野忠精（和泉守） 慶応2年2月？日（岡崎城） ※江戸留守の老中である水野忠精（和泉守）が署名している。 ※松平康英（康直）（周防守）は、慶応2年2月は江戸にいたと考えられる。松平康英（康直）（周防守）は署名している。 ※将軍の上洛に供奉した板倉勝静（周防守）・松平宗秀（伯耆守）・小笠原長行（老岐守）・井上正直（河内守）は署名していない。</p>	2人

〔凡例〕 ▼…将軍家茂の上洛期間に該当する老中奉書（城郭修補許可）

※上表の作成において、当該期の各老中の就任期間、及び将軍上洛期間における各老中の在京（在坂）・在江戸の区別については、針谷先生の御研究成果（針谷武志「幕末阿部正外履歴についての基礎的検討」、『学習院大学史料館紀要』11号、学習院大学史料館、2001年、の中の表1「文久3年—慶応元年 幕府閣老」表）を参考にさせていただいた。

※上表において、「将軍の上洛に供奉」という記載は、老中が在京だけでなく在坂したケースも含むものとする。

（注1） 酒井忠績（雅楽頭）が上京を命じられたのは文久3年8月25日であり、同月晦日に海路上京の途についた（『維新史料綱要』巻4、東京大学出版会、1966年復刻、560頁）。

（注2） 松平宗秀は慶応元年7月3日に帰府を命じられ、同年9月8日に上坂を命じられている（『維新史料綱要』巻6、東京大学出版会、1966年復刻、169、198頁）。